令和8年春の外国人叙勲受章者（1名）に対する叙勲伝達式の実施について

令和８年４月29日、日本政府は令和８年春の外国人叙勲受章者を発表しました。その中で、下記のとおり、台湾から１名の方が日台間の友好関係の増進に顕著な功績があったとして受章されました。台湾にて、片山和之・台北事務所代表より６月16日に張炳煌氏に対して、勲記及び勲章の伝達を行いました。

日本台湾交流協会としても日台関係の発展のために長年にわたり献身的な御尽力をされてこられた受章者のご貢献に衷心の経緯と謝意を表します。

張　炳煌氏

勲　　章：旭日小綬章
主要経歴：書道家、現 国際書道連盟会長、現 中華民国書学会会長
功績概要：書道分野における日本・台湾間の文化交流の促進に寄与

受章者のことば

片山代表、各位ご来賓、親愛なる友人の皆様、皆様こんにちは。

本日、無上の光栄と感謝の念を胸に、台北において日本政府より旭日小綬章を拝受いたしました。この章は台日文化の交融を象徴する最高の栄誉であり、私個人にとっての大きな節目であると同時に、台日の書道界における長年の交流への大いなる評価でもあります。ここに、日本台湾交流協会、片山代表ならびに職員の皆様に、厳かな本日の叙勲式を念入りにご準備くださいましたことにつき、心より感謝申し上げます。あわせて、ご多忙のところご臨席の皆様に、温かなこの栄誉をご一緒に見届けていただきましたこと、深く御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

六十年に及ぶ交流の歳月を振り返りますと、記憶はいまも鮮やかによみがえります。学生時代、書法展への出品が日本の書道団体に評価され賞を頂戴し、はじめて日本の地を踏みました。その際、父の友人で、国華ゴルフクラブの創設者であり大阪の著名な華僑でもあった何国華先生のご紹介により、書壇の諸先輩方とご縁を結ぶことができ、以後の交流の礎が築かれました。30歳になる前には、日本各地で十二回にわたる書法の個展を開催し、筆墨を通じて多くのご縁をいただきました。

その後は、中華電視公司（CTS）からのお招きにより、三局同時放送の「中国書法」や、皆様にもおなじみの「毎日一字」を企画・制作・司会し、通算およそ25年にわたって続けました。その間、頻繁に渡日して個展を開くことはかないませんでしたが、制作チームを率いて度々日本を訪れ、日本に息づく深遠な書道文化とその発展の現況を丹念に取材し、広く紹介してまいりました。また、日本の大手教育機関・ユーキャンとも連携し、古典名帖の復元と解説の叢書を刊行して、台日の民間文化理解の架け橋となるよう努めました。

日本との交流の中では、台湾にて数多くの日本の書道訪問団をお迎えし、展覧会、講演会、揮毫会の企画・運営を担う機会にも恵まれました。日本書道協会、読売・毎日・産経新聞の各書道会など、日本書壇を代表する皆様とも肩を並べ、台湾で規模の大きな、影響力のある合同展や交流事業を幾度となく実現してまいりました。

やがて淡江大学に奉職し、張家宜理事長および葛学長の力強いご支援のもと、伝統の筆墨からデジタル応用へと歩みを広げました。私たちは「スマートe筆」システムの研究開発を継続し、台日交流に積極的に取り入れるべく努め、日本の書壇からも高い注目と評価を賜っております。とりわけ近年は、業界のStudio Aのご協力を得て顕著な成果を挙げました。e筆とAI技術を高度に融合し、前例のない空中揮毫や作品の自動レイアウトなどの

スマート・システムを実装、さらに台日双方の教育現場への普及に本格的に取り組んでおります。

長年にわたって、書道の専門教育を持つ日本の多くの学校が時折団を組んで淡江大学で実地研修を行い、あるいは遠隔ビデオ会議システムを通じて海を越えて受講し、実質的な教育成果を上げてきました。現在は、スマートe筆とAIを組み合わせた書法学習システムの日本語版を日本において公開し活用いただけるよう推進しており、積極的な相互交流のもと、伝統文化の普及とデジタル保存に新たな可能性が切り開かれるものと確信しております。

本日の叙勲は、私にとりまして、なお一層精進を重ねるための新たな出発点にほかなりません。これを自戒と励みとして、皆様の変わらぬご支援とご声援を心よりお願い申し上げます。改めまして、本日ご臨席くださいましたすべての皆様に深く感謝を申し上げ、結びのご挨拶といたします。誠にありがとうございました。

※中国語によるごあいさつを当協会台北事務所による参考訳として掲載しています。

